

令和4年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(今泉地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**令和4年度 第8回
まちづくり懇談会《今泉地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《今泉地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和4年11月29日（火）
- 2 開催場所 今泉地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 31人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，東市民活動センター所長，道路保全課長，保育課長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 今泉地区コミュニティ協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所 管 課
1	今泉小学校の校舎・体育館改築について	学校管理課 教育企画課
2	LRT開業に伴う通学路・周辺道路の交通安全対策について	学校健康課 生活安心課 市街地整備課 技術監理課
3	今泉地区防災計画作成上の課題・要望について	危機管理課 学校管理課

(4) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	LRT線路の通行時の危険性について	LRT整備課 LRT企画課 生活安心課
2	景観づくりについて	景観みどり課
3	子育てについて	保育課

4	大規模の出先機関について	みんなでまちづくり課
5	L R T 運行線路上に支障が生じた場合の 緊急連絡先について	L R T 企画課

(5) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 金沢 力 氏

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	今泉小学校の校舎・体育館改築について
-----	--------------------

今泉小学校は今年で94周年を迎えた。現在の校舎は創立50周年の昭和54年に建てられ、もともと1学年2学級対応の校舎であるが、現在では学級数が増加し、1学年3～4学級となっている。平成18年、平成25年にプレハブ校舎2棟が建設されたにもかかわらず、空き教室がないという状況になっている。地域の方から「プレハブ校舎に通わせたくないから孫は泉が丘小へ行かせることも考える」という残念な声も聞かるようになってきた。さらに、利用者の増加により、平成30年3月に子どもの家が1棟増築され、それに伴い、校庭に車を駐車せざるを得ない状態になっている。

校庭が狭くなった影響で運動会のトラックも十分に取れなくなり、PTAや地域のソフトボール大会等では試合がやりにくい状態になっている。また、現在では多くの学童保育利用者が車で迎えに来る際に校庭に乗り入れるため、校庭の状態も悪くなっている。

小学校の校庭は地域にとって、「夏の夕べ・盆踊り」「地区体育祭」「防災訓練」の会場であるが、狭くなり、状態が悪くなっていくことが危惧されている。

今泉小学校はJR宇都宮駅に一番近い小学校であり、近年は転勤してくる際にネット上での評判を参考にする保護者が多く、今泉小学校は良い学校という評価を得ており、転入児童も多くなっている。また、現在、地域内ではLRT開業に伴い大型マンションの建設が多数に及び、昨年度末の時点で合計560世帯が入るマンションが計画されており、その後も数棟のマンション建設が見られる。ファミリータイプの分譲マンションが増えると必然的に児童数が増える可能性が高いと思われる。さらに駅東口の宮みらい地区は築瀬小学校区であるが、宮みらい地区のマンションから今泉小学校に通学している児童もおり、そのような児童も今後、増加してくると考えられる。

体育館は小学校の行事や体育の授業で使用するのはもちろんであるが、スポーツ少年団や地域のバレーボールクラブなどの団体が利用している。地域では敬老会、シルバークラブの運動会で高齢者が集う場でもあるため、バリアフリー化が必要ではないか。

この提言は前回、平成30年度のまちづくり懇談会でも質問した。その回答として「現在の学校施設では対応できない状況が見込まれた場合は、早急に検討していく。今泉小学校の教育環境の充実に努めてまいりたい。」と市長から前向きなお答えをいただいている。

まさに、現在、対応できない状況になりつつあると思われる。

以上のことから、整備事業が行われ生まれ変わった県都宇都宮の玄関口となるJR宇都宮駅東口にある小学校として相応しい施設で創立100周年を迎えられるよう、改築を強く望む。

【市長】

P T Aとして日頃より子どもたちのために熱心な活動をしていただき、ありがとうございます。

今泉小学校は、これまで児童数に応じて子供たちの教育環境、また放課後の居場所等の確保に努めてきたが、P T Aや地域での活動における学校施設の利用などに、大変ご不便をお掛けしている。

今泉小学校の児童数は、これまでの児童の転入・転出状況やマンションの建設に伴う児童数の増加、また本年の住民基本台帳上の未就学の子ども数に基づき、現段階で判明している新たなマンション建設が今後の児童数に与える影響を分析して、当面の児童数の増加には対応できると想定しているが、今後も新たなマンションが建設された場合には、将来的には教室が不足する可能性がある。

本市における教室不足への対応については、児童数の推計に基づき、中長期的に普通教室の不足が見込まれる学校において、校舎の増築を行い、必要な教室を追加・確保してきたところあるが、今泉小学校は、これまで、2度校舎を増設している。校庭の面積が減少しており、今後、今泉小学校の児童数の増加が見込まれた場合には、実情に応じた最適な手法を検討しなくてはならない。

本市では錦小学校や姿川第一小学校、上河内中央小、横川中央小、雀宮東小、豊郷中央小や晃宝小等が児童数の増加により、増築等を行ってきた。

このような中で、現在、昭和40年代に整備した校舎や昭和40年代後半から50年代前半に整備した体育館において、バリアフリー化を含む抜本的な老朽化対策を、順次、実施しているところであり、今泉小学校については、同様の時期に建設された体育館の老朽化対策を検討する時期に差し掛かっている。

これまでも本市においては、限りある学校敷地を有効に活用するために、改築時に校舎の教室などを合築する「施設機能の複合化」を行った事例がある。

複合化の例として、中央小学校の場合は、1階部分にコミュニティセンターや特別教室を揃えて、2階部分に体育館、アリーナを建設した。桜小学校は、体育館の上の3階部分にプールを作るというようなことを行っている。敷地の拡大が出来なかったり、ほかに移転をして新たな建築をといても、土地がなかったりするためである。

今後については、将来の児童数を見極めながら、併せて「施設機能の複合化」というものを、検討してかなければならないと思っている。マンション建設の影響というのを考慮した児童数推計の分析も慎重に見極めながら行っていく。

すべての児童が、安全・安心に学校生活を送れるよう、また、地域の皆様にとっても利用しやすい施設で、おらが学校と思っていただけるような学校に仕上げてまいりたいと思う。御理解をいただきたい。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	LRT開業に伴う通学路・周辺道路の交通安全対策について
-----	-----------------------------

LRTは試運転も始まり、来年8月の開業が待たれるところであるが、開業に伴う通学路・周辺道路の交通安全対策について伺う。

LRT導入に伴い、鬼怒通りが東西を通る今泉地区では、LRTの工事開始後、鬼怒通りの渋滞を回避するために、我々の生活道路である周辺道路を通り抜ける車両の増加による危険性が大きな問題になっている。今泉小学校児童や泉が丘中学校、宇都宮白楊高校生徒などの通学路に関しても同様の状況である。

例を2件あげると、1点目、鬼怒通りから北側のセブンイレブン元今泉4丁目店とホームセンターカンセキ駅東店へ向かう道路の交差点で歩行者と車両の接触事故が本年7月頃に発生した。この交差点では以前にも同様の事故が起きている。原因の一つとして、この交差点の信号は南北には車両用の信号があるが、東西には歩行者用の押しボタン式の信号のみで、車両用の信号がないことが考えられる。また2点目として、今泉小学校の西側の東雲通りから白楊高校前通りに出る車両が多く、信号が短いため、無理に突っ込んでくることがあり、登校中の児童が危険な目にあつたことがある。

1点目のセブンイレブン元今泉4丁目店の交差点については地区の環境点検でも何度も危険が指摘されており、宇都宮東警察署に改善を申し入れているが、反応が鈍い状況である。2点目の東雲通りと白楊高校前通りの信号に関しては信号の変わる時間の見直しや通学時間帯の警察官の立ち会い等を要望しているが、実現に至っていない。

また、「ウツノミヤテラス」が本年8月にオープンしてから駐車場を利用する車両のためか、駅東口のロータリーを通行する車両がかなり増加し、歩行者やロータリーに侵入する車両との間に危険な面が多く見られる。駐車場を出る際に逆走したり、出てすぐの横断歩道で歩行者と接触しそうになる車両を見たこともある。

今後、実際に鬼怒通りをLRTが走行することになれば、ますます鬼怒通りを避け、周辺道路を通行する車両が増加することが危惧される。また、ロータリーでの危険も増加すると思われる。信号や交差点の改善は警察署の所管の問題であるかと思うが、今泉小学校児童や泉が丘中学校、宇都宮白楊高校などへ通う生徒や地域住民の安全を守るために、市としても対策を講じていただき、快適で安心して暮らせるまちづくりに向けて、御尽力いただきたいと思う。

【市長】

日頃から皆様には、交通安全の推進にご協力いただき、ありがとうございます。

本市では児童の交通安全確保のために、毎年、学校・教育委員会・道路管理者、栃木県警察等が連携した年1回の「通学路合同点検」を行っている。現場において具体的な安全対策の検討を行い、必要な対策を講じるとともに、今泉小学校においては、児童の安全を守るため、交通指導員の配置をはじめ、教職員による立哨指導を行うなど、交通安全対策に努めている。

御意見いただいた信号の設置等については、交通管理者である栃木県警察に市としてもお伝えするとともに、セブンイレブン元今泉4丁目店前の交差点付近については、交通量が多いと以前から認識しているので、交差点を通行する自動車に対して、注意喚起をする看板の活用について、地域の意見を伺いながら、具体的な内容また設置箇所などの検討を進めてまいりたい。

また、「ウツノミヤテラス」のオープンに伴う交通安全対策であるが、施設所有者の方で、駐車場内の出口付近に一方通行を示す案内標識の設置をはじめ、本市において駐車場出口正面の歩道上へ進行方向矢印の標識を設置するなど、逆走防止対策を行っているとともに、歩行者との接触防止なども含め、更なる安全の確保に努め、駐車場出口付近の止まれの標識の設置など、施設所有者と連携して、駐車場利用者への注意喚起等の必要な対策を講じていく。

またLRTの開業に伴って、通勤手段の変化などの状況を注視しながら、周辺道路の安全対策については、地域の皆様・学校・警察などの関係機関と連携を図りながら、通学路合同点検を実施し、地域の状況に応じた道路の安全対策に取り組んでいく。

先程申し上げた、路上の標示や看板などの対策を行いながら、安全安心な道路環境の確保に努めていく。また地域と学校が協力しながら、登下校の見守り活動などに取り組んでいきたいと思うので、地域の皆様にも大変御苦労をお掛けするが、引き続き御協力をお願いする。

■地域代表意見 3（要旨）

テーマ	今泉地区防災計画作成上の課題・要望について
-----	-----------------------

災害に強いと言われる今泉地区であるが、最近の頻発化する自然災害に備え、住民一人ひとりが安心・安全に生活することができ、災害時においても住民の生活を守ることができるよう、地区防災計画の作成を現在進めている。

現在、今泉地区では、集合住宅の増加に伴い、住民数が増加傾向にあるが、一方で、自治会加入率は減少している。そのような中、今泉地区の住民等が適切に避難行動をとれるよう、防災情報を掲載したコミュニティだよりを配付したりするなど、働きかけているところである。

今後も、マンション建設により、住民数が更に増加する見込みであり、指定避難所の収容人数の不足が懸念される。そこで、白楊高校やライトキューブ宇都宮、マロニエプラザを新たに指定避難所として指定することを要望する。

また、東日本大震災の際は、多くの帰宅困難者が、一時、今泉小学校に移動し、混乱が生じた。今後、大規模災害が発生した場合には、駅東口に新設されたライトキューブ宇都宮が「一時滞在施設」になると聞いているが、具体的にどのような対応をしていくのか、今泉地区との役割分担等を明確にお願いしたいと思う。

さらに、市の備蓄物資や支援の物資が届く前の段階で、少しでも早く避難者に物資を提供していくためには、今泉地区で保管している現状の備蓄品では不足することが懸念される。避難者に物資が行き届かないといった状況にならないためにも、今泉小学校にある今泉地区防災会倉庫の増設に御協力いただきたいと思うが、いかがか。

回答	所管課：危機管理課、学校管理課
----	-----------------

【市長】

日頃から防災力の向上に努めていただき、ありがとうございます。

「指定避難所」は、ご自宅が被災して住むことが出来なくなった被災者が一定期間生活する場所となっている。想定避難者数を収容出来るよう、市有施設の小・中学校や体育施設など、市内で148カ所を指定し、想定される避難者が全員避難できる場所を確保しているところである。

また「一時滞在施設」であるが、災害時の鉄道の運行停止により、多数の帰宅困難者の滞留が想定されることから、JR宇都宮駅に隣接している「ライトキューブ宇都宮」などを位置付けている。

東日本大震災の時も、今泉小学校や旭中学校・築瀬小学校といった駅に近い所は、大変混雑したところであり、今回は「ライトキューブ宇都宮」も位置付けている。

役割分担については、「指定避難所」は開設・運営に自主防災組織をはじめ地域住民の方のご協力をお願いしている。「一時滞在施設」については、指定管理者と市が開設・運営を行い、駅員が警察と協力して駅から誘導を行うことにしている。

さらに「指定避難所」が被災をして、避難所が不足するというような場合には、民間施設も含めて、使用できる施設を活用することとしており、白楊高校やマロニエプラザなどに依頼していくこととしている。白楊高校については、「災害時における施設利用に関する協定」を締結しているので、「一時避難場所」として使用する事も可能となっている。

次に備蓄物資であるが、避難所や市内15カ所の防災備蓄庫に想定避難者数を勘案した必要数量を確保するとともに、不足する場合には、災害時協定等を活用して調達するなど補充できるような体制をとっている。また地域においても準備頂けることは心強い。防災倉庫の増設については、今泉小学校敷地内に新たに倉庫を増設するスペースを確保することは困難な状況であるが、校庭にある既存の倉庫内に一部余裕があるため、当該スペースを避難者用の物資の保管場所として活用できるように学校と調整し、検討していく。

引き続き、避難所の開設・運営の支援、また様々な防災活動への御協力をぜひお願いする。

■自由討議（要旨）

発言 1	LRT線路の通行時の危険性について
------	-------------------

LRT工事についてであるが、横断歩道を渡る時、線路上のレールと敷地の間に7センチほどの間がある。そこをベビーカーやシルバーカーなどが通った場合に、間に入ってしまったり、通りにくくなったりするのではないかというふうに感じた。また停留所から出た場合に、若干斜めに出るお年寄りなどが出るのではないかと思い、レールのところに挟まってしまうのではないかという心配があるので、どのような対策、何か方法はあるのか。

また、停留所周辺はLRTも速度が出ないので、レール幅のその間を少しでも狭くするという事は出来ないものかと考えを持ったが、いかがか。

回答	所管課：LRT整備課，LRT企画課，生活安心課
----	-------------------------

【市長】

LRTの文化、路面電車が走ったことがないまちであるため、特に利用される方やLRT周辺の方々など分からないことばかりだと思う。本市においては、とちぎテレビやホームページなどで交通ルールについて、周知をしているところである。

交差点における軌道、特に線路部分の横断についてご質問をいただいたが、特にベビーカー等が安全に走行できるようにということであるが、レール脇の溝については、鉄道の踏切、普通のJR線などの溝幅は6センチから7センチ程度になっているが、LRTは5センチ程度としたところである。

また、LRTの運行にあたっては、運転手が進行方向の安全性を目視で確認する事になっている。真正面が運転席であり、視野が大変広く、安全を確認出来るよう、鉄道と違って、視野を十分に確保している。理由は、鉄道の場合には、地下鉄やモノレールもそうであるが、歩行者や車と共存せず、単独で走っている。ところが、路面電車は、車や歩行者と近接して走っているため、運転手が視野が良い一番先頭において、運転をしているので、十分に目視で確認をして、万が一、横断歩道や軌道敷内に歩行者等がいる場合には車両を停止することになっている。

LRTは停留所で青の時には進行するが、その際に歩行者は通行していないが、歩行者が通行している時は、LRTは赤で止まる。万が一の時には、LRTは発車しないというルールになっている。

そのようなことを、これからも市民の皆様にご理解いただけるよう、また特に自転車利用者・自動車運転者向けの啓発動画を、繰り返し見ていただくことにより、十分理解していただけるよう、これからも努力したいと思う。交通安全教室等でも同じようなことを行っているが、教習所などでも、新しいルール

の教材を使っただけでなく、御協力をいただいているとともに、警察においても施設内モニターでLRTについて放映していただけるということであるので、これらを行いながら、安全運行第一で進めてまいりたい。

発言 2	景観づくりについて
-------------	------------------

景観みどり課による景観づくりに関するワークショップに参加させていただいたので、この景観づくりについて質問させていただく。

このワークショップはLRT開業に伴う、鬼怒通りの景観づくりに対するものであったと認識しているが、本年、6月8日に3回目が開催され、いろいろな意見・要望が出ていた。その中で、地域で取り組めることもいくつか出たと記憶しているが、未だに具体的な取り組み方法について、地域にはおきていないので、今後、どのように取り組んでいけばよいか、教えていただきたい。

また、ワークショップの際にも意見が出たが、地域での取組に対し、事業を継続していくためには助成金が必要であるという意見が出た。こちらは検討されているのか。

他に、地域内にある宇都宮白楊高校生徒に花のポットの作成を依頼することや、宇都宮ブレックスや栃木SCのスポーツクラブのチームフラッグを取り付ける等の大変良い取組に対する提案が出たが、このようなことに対する進捗状況について教えていただきたい。

回答	所管課：景観みどり課
-----------	-------------------

【市長】

ワークショップに参加していただいたことに感謝を申し上げる。

この地域住民ワークショップであるが、3回開催し、1回目が令和2年11月、2回目が令和2年12月、そして3回目が今年6月に開催をしたところである。

景観形成の推進には、市民の皆様・事業者・市が連携・協働することが重要である。我々行政だけでは出来ない。特にLRTの沿線については、LRTが走行する風景、またLRTから眺める風景というものは、宇都宮市を印象付ける代表的な景観となるので、都市や田園・自然・産業など宇都宮の個性・魅力が感じられる景観の形成に向け、地域の特性に応じた景観づくりというのを、心掛けていかなければならない。

そのような中、JR宇都宮駅東側から国道4号までの駅東周辺区間であるが、令和2年11月から今年6月までの間に、地域住民の皆様とワークショップを開催した。また沿線企業へのアンケート調査も実施したが、様々な御意見をいただいた。現在は、地域独自の景観づくりの目標を共有し、良好な景観形成に向けた活動やルール作りなどに協働で取り組むための「地域の協議会」を、来

年1月に設立する。

ワークショップでいただいた意見・企業へのアンケート調査、あるいはそれ以外の皆様の御要望などを、この「地域の協議会」の中で議論をさせていただき、そして作りたいと思う。先程から申し上げるように、参画する住民の皆様、また沿線企業などの御意見をしっかりとこの中に入れていくことが出来るようにしたい。設立された協議会において、賑わいと風格を感じる沿線景観の形成に向けて、ワークショップでご意見をいただいた「花植えをしたらどうか」ということや、「フラッグの掲出」などの景観づくり活動の内容や景観形成重点地区の指定に向けて、具体的に検討する。

また、地域の良好な景観づくり活動への支援は、協議会を通じて「宇都宮市魅力ある都市景観づくり推進活動費交付金」がある。この交付金を景観形成重点地区の指定に向け活用いただけるよう、今後は良好な景観づくり活動が景観形成重点地区指定後も継続出来るような仕組み作りについても、皆様の御意見をいただきながら検討していくので、これからも、お力をいただけるよう、お願いする。

発言 3	子育てについて
-------------	----------------

宇都宮市の政策を市長から御説明いただいたが、子育てをするにあたって、とても困っていることがあるので、こちらに参加させていただき、ぜひとも検討いただきたく発言させてもらう。

私は他県からこちらに移住し、子育ての環境などを重視した上で、この地区を選ばせていただいた。実際に住んでみて、働く中で、働く側としては子どもの預け先というのはとても重視する。しかし、実際蓋を開けてみると、待機児童ゼロとおっしゃっているが、希望園に入園できない児童数は令和4年4月の段階で295名おり、実際に私も希望園に入れず、育休を延長している立場である。

何が言いたいかというと、この地区で保育園の数というのはすごく限られており、なおかつ、新幹線を使って働きに行く方々も、この地区には多いということもあり、住んでいる住民が保育園に入れず、他の地区から来る親御さんなどが、入園している現状もある。高い固定資産税を払い、住んでいる地域で子育てをしたいと思っているにもかかわらず、希望している園に入れない状況である。

LRTが作られるにあたり、世帯がこれから増えるという話があったが、やはり子育て世代は住みやすい環境を求めて、そういったマンションに住んでくる人達も大勢いるかと思う。働いている中で、「預け先がない」、「家から近い預け先に預けたい」方もいると思う。しかし保育園は、この5年間で1つ位しか増えてない。最近できた送迎保育ステーションと、ゼロから2歳までの小規模しか、この学区の中では保育園は増えていない。地域で子育てをするにあつ

て、地域の保育園に預け、その地域の小学校に上がり、そのまま中学校に、その一連の流れを、住んでいるからにはしていきたいと思っているが、車ありきで考えられているのか、市議会の回答の中で部長さんが希望園に入れない方が選んでいるからと言うふうに発言をされたり、職員の方はこの辺は土地代が高いから保育園が作れないとおっしゃっていたりするので、これからLRTが開通されて子育て世代がもっと入ってきたときに、保育園が足りない、働いている親が苦勞して保育園に通わせるということがないように、ぜひとも保育園をもっと増やしていただきたいと思う。

5年間で1カ所しか増えていないが、計画がないようだが、この辺りはいかがか。

回 答	所管課：保育課
------------	----------------

【市長】

出生率が低下しており、働く女性がどんどん増えている。現在の景気やコロナ禍もあり、そのような環境で市はそれに合わせて保育園の受入人数についても保育士の数を増やすなどして対応している。

待機児童についてであるが、国が規定する待機児童は、複数の園を希望しても入ることができない場合は待機児童になるが、ここの保育園しか行けない、行きたくないという方は、待機児童扱いにはならない。しかし、そういった方にもなるべく保育園に行っていただけのように、調整を行っている。

また、希望通りの保育園が空いた場合には対応ができるように保育課で行っている。すぐに改善はできないが、行政としては、希望されるところに極力入れるように行っていきたいと思う。

また、今回新たな企画として行ったのは、今までの保育園は、兄弟では入れないということもあったが、それを兄弟で入ることができるよう工夫もさせていただいているので、皆様が安心できるだけでなく、希望するところに入れるような環境づくりについても行ってまいりたいと思う。

再 発 言	子育てについて
--------------	----------------

希望園に入れず、他の園があると斡旋がきても、このエリアの保育園が入っているというわけではないので、その点も含めて、是非とも子どもの数は減って行くとは思いますが、駅の近くに預かれる場所があるということは、他の利便性もあると思うので、ぜひ検討していただけるとありがたい。

発言 4 大規模の出先機関について

東図書館のところに市の出先機関はあるが、もう少し大きい出先機関はどうか。駅ビルが出来たので、あの中にそういったものが出来れば良いと素朴に思っている。このエリアに出来れば良いと思う。

回答 所管課：みんなでまちづくり課

【市長】

地区市民センターや出張所など、様々な出先機関を各地区に用意している。

駅東については、東市民活動センターがあり、市の施設の中では、規模は大きい方である。

本庁に行けば、すべてのサービスが受けられるので「本庁に行けば大丈夫だろう」という方が多い。このため、本庁の限りある駐車場はいつも埋まっておろ、特に転入・転出の時期というのは、大変な状況になる。1年間で約100万人の方が、市役所、本庁にお見えになるので、そういったこともあり、駐車場の整備を心掛けてきたが、土地がないため、これ以上駐車場は拡張することができない。このことから地区市民センターや出張所を充実させて、本庁でしか出来ないサービスをなくす、つまりは、地区市民センターや出張所でも、本庁と同等のサービスを受けることが出来るようにサービスの拡大に努めてきた。

これからデジタルの社会となり、より多くのサービス提供が簡単に受けることができるような出先機関にしてみたいと思うので、不足の点や提案があれば、ぜひ教えていただき、改善の努力をしてみたいと思うのでよろしくお願いする。

発言 5 LRT 運行線路上に支障が生じた場合の緊急連絡先について

駅前広場付近のレールに靴の先端が入ってしまったという事例が役員会の中で話があり、万が一、そのような事例が起きた時には、どのような規則の中で救済を求めるのかどのような形で緊急の時の連絡先を知るのかなど安全対策が必要であると考え。万が一何かあれば、当面は110番119番に電話しなさいと役員会の中で話をした。今日走って来たが、軌道上にポールが立っている。そこには駅東何号または峰何号と書いてあるので、そういうポールナンバーを目印にしてみてもどうかと思う。ベビーカー等がレールに入ってしまった時などの連絡についてコールセンター等に連絡させるべきではと思う。安全確保のために、試運転等をする前に、緊急時の連絡先を示すべきではないのか。うちの自治会として、当面は110番、119番に通報するよう指示をしている。今後の運用にあたって、緊急時の連絡先を優先して示してほしい。

【市長】

運転手が目視で前方確認等をしながら、安全運行に努めるとともに、特に人が入ってしまったようなところはスピードは出していないが、御指摘のあった、いざと言う時、例えば地震などや何かが落ちてきた時など、事前に地域の方にお知らせをして、御連絡をいただくというのは、大変有難いことなので、ライトレール宇都宮に連絡を取り、緊急時の連絡先について工夫をするように、指示をさせていただきたいと思う。市民の皆様にも、周知しなくてはならないと思うので、その時にはお知らせさせていただくので、よろしく願います。